

令和7年度 英語科及びデジタル科実施状況について

(別紙2)

金沢市立額小学校

①児童アンケート

(1) 英語科(小学校5年生:令和8年1月実施) (%)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	無回答
問1	英語科の勉強が好きだ。	25.0	39.0	24.0	12.0	0
問2	英語科の勉強は大切だ。	64.0	29.0	5.0	1.0	0
問3	英語科の授業の内容が分かる。	61.0	30.0	8.0	1.0	0.0
問4	先生や友達に英語で質問することができる。	28.0	51.0	16.0	5.0	0.0
問5	先生や友達の英語の質問に英語で答えることができる。	30.0	46.0	17.0	7.0	0.0
問6	アルファベットの大文字が書ける。	88.0	11.0	1.0	0.0	0.0
問7	アルファベットの小文字が書ける。	86.0	11.0	4.0	0.0	0.0
問8	教科書やピクチャーディクショナリーの単語や英文を書き写すことができる。	70.0	22.0	5.0	3.0	0.0
問9	教科書の単語や英文を読むことができる。	39.0	39.0	16.0	5.0	0.0

(2) デジタル科(小学校1～6年生:令和8年3月実施)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えば そう思わない	そう思うわない
問1	自分やみんなのことを考えてICTを使うことができる。	69.7	19.4	7.1	1.4	2.5
問2	生活の中で上手にICTを使うことができる。	68.9	19.4	8.2	1.4	2.2
問3	深く広く学習するためにICTを使うことができる。	72.1	15.6	8.7	1.9	1.6

②指導改善の具体策

【英語科】 ・英語の学習が大切だと感じている児童は9割いるが、勉強が好きだと感じている児童が6割程度にとどまっている。英語が楽しい、自分から質問ができた、相手から言われていることがわかったと感じられる授業作りや英語を身につけたいとするゴールの設定を心がけ、授業改善を図っていく。 【デジタル科】 ・児童は、ICT機器の操作に慣れ、学習に活用しようとする意識が高いことが分かった。一方で、一部の児童が目的に応じて効果的に活用できなかったり定着していなかったりする。今後は、学習のねらいを明確にしたICT活用を進めるとともに、協働的な学びや情報モラル教育の充実を図り、児童が主体的かつ適切にICT機器を活用できる力を育成していく。
--

③学校関係者評価

・学校の英語教育が子供たちに意義や学習内容をしっかり伝えられていることが窺える。また、基礎的な技能が着実に身に付いていると感じる。一方で、英語の勉強が好きの子の割合はそれほど高くなく、「大切だと思う」という意識に比べると差が見られる。また、実際に英語を使ってコミュニケーションすることに難しさを感じている児童もいるようだ。今後は、英語を使う楽しさや達成感を味わえる活動をさらに充実させることで、「分かる」「できる」から「好き」へとつながり、より主体的に英語を活用しようとする子供たちが増えることを期待している。 ・多くの児童がICTを適切に活用できていると感じていることが分かった。ICTが単なる機器の操作にとどまらず、学びを広げたり深めたりするための道具として活用されていることが窺える。また、情報モラルや相手への配慮についても意識が育っていると感じる。学校がICT活用と情報モラル教育をバランスよく進めている成果ではないか。一方で、学習や生活の中で十分に活用できている実感を得られていない児童もいるようだ。今後も、一人一人の実態に応じた支援を行いながら、ICTを安全に、そして主体的に活用する力を育てていくことで、すべての児童がそのよさを実感できる教育活動につながることを期待している。
--